

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津明誠高等学校 学校番号 30

I 自己評価

| | | | |
|-------------|--|--|---|
| 1 学校教育目標 | 生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。 | | |
| 2 スクール・ポリシー | <p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 | <p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通して、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成 | <p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を進展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒 |

| | |
|--------------------------------|--|
| 3 評価する領域・分野 | ◇学校経営 |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <p>○外部評価アンケート（令和3年度実施のもの）実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒および保護者にメールを送付、WEBで回答。 ・保護者、学校運営協議会委員では167人、生徒は190人が回答。 ・実施方法の変更により、前年度比での評価が低下。 <p>○アンケートの結果</p> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価の項目は以下のとおりであった。①生徒は学校から家庭への連絡を速やかに伝えている。②教職員については「専門性が高く信頼できる」「文書や個人情報を適切に管理している」「体罰はない」ととらえている。③コロナ対応について適切だととらえている。 ・低評価の項目は以下のとおりであった。①「家庭学習」の取組不足、②「清掃が行き届いていない」、③「生徒会活動、ボランティア活動の不足」を感じている。コロナによる活動の抑制が一因と思われる。ICTの更なる活用を望んでおり、今後の課題である。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価の項目は以下のとおりであった。①メール配信サービスは有効活用されている、②コロナ対応は適切であると評価している。教職員の電話等対応も適切であると感している。 ・低評価の項目は以下のとおりであった。①「家庭学習」の不足、②「ボランティア活動、自主性を伸ばす指導、道徳教育」が不十分、③ICT活用、個々の能力に応じた指導を期待している。 |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | <p>◇「自ら挨拶する明誠高生」の育成</p> <p>◇「積極的に学ぶ明誠高生」の育成</p> <p>◇「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」の育成</p> |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <p>管理職との円滑な連携のもとで各分掌、学科、学年において主体的な取組を行い、報告・連絡・相談の体制を徹底し、相互の情報共有により全職員の共通理解を図って、迅速かつ丁寧に対応する。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 礼儀や生活規律の確立</p> <p>(2) 授業改善の推進と学習習慣の育成</p> <p>(3) 地域連携の推進と地域貢献意識の高揚</p> | <p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 授業規律の徹底、欠席・遅刻・早退数の減少、生徒情報の共有、共通理解による生徒対応、生徒会・MSLによる啓発活動、部活動の活躍・大会結果</p> <p>(2) 研究授業・公開授業による教員間相互評価、生徒による評価、進路目標の達成、検定の合格</p> <p>(3) 生徒会・学校家庭クラブ・MSL活動の成果、各学科における教育活動の成果、ホームページの充実と迅速な更新、PTA活動との連携、行事等への地域住民の参加促進</p> | |
| <p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀や規律を重んじ、自らの行動に責任を持たせるよう、挨拶の励行、遅刻の防止、端正な身だしなみの実践を心掛けた。 ・ICT機器の活用と少人数指導により、課題解決能力を育む授業改善進めた。また、専門教育においては主体的な姿勢の成長を支援した。 ・生徒の個々の特性に応じた進路指導の体制の充実を図った。 ・課題研究や総合的な探究の時間において地域活動への積極的な参加を図った。 | <p>10 評価視点</p> <p>①学校生活における規律が身に付いたか。</p> <p>②授業改善が図られたか。</p> <p>③進路実現が達成できたか。また、検定合格ができたか。</p> <p>④地域連携活動等の諸活動を充実させられたか。</p> | <p>11 評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> |
| <p>12 成果・課題</p> | <p>○ICT機器の活用は年を経るごとに浸透し、授業改善や職員の働き方改革にとって好ましい方向につながっている。</p> <p>○新型コロナの影響が続き、行事、外部諸機関との連携、体験活動等を制約せざるを得なかったが、対策を講じながらコロナ前に戻せたものも多かった。</p> <p>○生徒の学校生活全般について、多くの生徒が概ね真面目で落ち着いて取り組んだ。また、気持ちよく挨拶を交わすなど、社会性を身に付けることができた。</p> <p>▲一方で、一定数の生徒は欠席や遅刻が多く生活習慣を乱していたり、生活上の課題を抱えて問題行動として顕在化するものがあつた。</p> <p>○▲今年度の「生徒と保護者等を対象とするアンケート結果」は前年度と比較して多くの項目で評価が高かった。それに対し、「家庭学習の取組」、「生徒が家庭で学校の話をする」「保護者の悩みや相談に学校が適切に対応する」では評価が低かった。学校と家庭の連携を積極的に講じて生徒の状況把握を図り、丁寧に保護者に寄り添い協調して生徒への教育活動に取り組む必要がある。</p> | <p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p> |
| <p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用法は加速度的に多くの実践や提案がなされている状況であり、引き続き本校の現状に照らして有効で効率的な方法を取り入れていく必要がある。 ・新型コロナ対策下での生活が続く中で、授業や集会、学校行事等の実施の方法を模索しながら進めてきており、過去の方法に戻すものと改善して実施するものを整理して、来るべきアフターコロナの時代に備える必要がある。 ・地域連携を通して地域に貢献できる社会人の育成を目指す上で欠かせない地域連携活動について、新型コロナ対策下からアフターコロナを視野に入れて精選及び開拓していく必要がある。 ・全職員による生徒理解とその共有、個々の生徒に応じた生徒指導、進路指導の充実を図り、家庭や関係諸機関との連携を密にして、生徒指導上や進路指導上の諸課題への早期の対応に努める。 | | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月18日

| |
|--|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員には自信を持ってもらいたい。本校はアットホームで生徒1人1人に目が行き届く学校である。特に進学の方に更に力を入れて手厚く指導してほしい。 ・成年年齢引き下げについて、法の改正に伴って生徒が課される責任に対して、生徒に自覚を持たせる指導が必要である。社会の雰囲気は急には変化しないが、学校における消費者教育等の取り組みは重要である。 ・コロナ禍で学校運営に苦慮しているだろうが、行事や校外での活動等を通して、高校生の段階で社会に出てから直接的に役立つ経験を積むことに意義がある。 ・定期試験の廃止や習熟度の低い生徒に対する特別補習等、新たな企画や改正には、各方面の意見を傾聴して議論を尽くし、生徒にとって良い方向に進めてほしい。 |
|--|

